

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	青少年育成センター運営事業	会計	一般会計	事業No.	725	施策順No.	24-005
		事業種別	政策・その他	予算科目	10-5-2-10-2		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	生涯学習・スポーツ課		
施策	24 家庭教育の充実	事業期間	開始	19	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	子ども及びその家庭						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	健全に育つ環境が整う							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績		23年度目標
		非行率(%)=刑法犯少年/10月1日現在の14~19歳人口(市民課調べ)(「長野県青少年対策本部少年補導の概況」より)	5	7.1	12	10	11.8	10	B
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	非行率は例年増加しており、今後も巡回活動、啓発活動への取り組みが必要である。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	地育力による人づくり、青少年の健全育成、青少年保護活動等を行うため青少年育成センターを設置する。また飯田市の青少年健全育成基本方針に基づき、青少年の健全育成に関する活動を担うため、センターに青少年育成推進委員を置く。青少年育成推進委員はセンター事務局と共に、青少年健全育成活動(啓発・巡視・地域、団体、関係機関等との連携など)を行い青少年が健全に育つ環境整備に努める。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 各地区、団体等との情報交換会及び巡回活動の開催(7・8・11・12月) (1)学校、(2)川路地区、(3)伊賀良地区、(4)少年警察ボランティア協会、(5)橋南地区 2 情報共有のための全体会(11月) 3 有害な地域環境実態調査(漫画喫茶、ネットカフェ、カラオケボックス等)(11月) 4 推進委員のための研修会(青少年の犯罪の傾向研修等) 5 育成センター情報による情報発信	1 巡視回数 2 開催回数 3 実態調査箇所 4 実施回数 5 発行回数	1 5回 2 1回 3 18ヶ所 4 2回 5 2回
23年度実施計画	1 青少年育成推進委員改選 2 各地区、団体等との情報交換会及び巡回活動 3 情報共有のための全体会 4 有害な地域環境実態調査(漫画喫茶、ネットカフェ、カラオケボックス等)(7・11・2月) 5 推進委員のための研修会(青少年の犯罪の傾向、インターネット研修等) 6 広報、HP、センター情報等での情報発信	1 選出委員 2 巡視回数 3 開催回数 4 実態調査箇所 5 実施回数 6 発行回数	1 10人 2 5回 3 2回 4 30カ所 5 2回 6 2回

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		1,000	670	1,000		
計(A)		1,000	670	1,000		
正規職員所要時間			300			
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			1,073			
トータルコスト A+B			1,743			

4 事業に対する市民や議会の意見

IT技術の向上によるケータイやインターネット等を通じての有害情報への安易な接近や遊戯施設や24時間型の小売業の展開などにより、子どもたちを育むために障害となる環境は益々進んでいる。青少年健全育成への市民の関心は高いと考えられる。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	①基本的なしつけができる ②公共心・社会性が育つ	施策の成果指標又はムトス指標	基本的な生活習慣を修得している子どもの割合:% 地域行事・地域活動に親子で参加している割合:%
この事務事業は施策の目的達成にどのような貢献しましたか	4年間の振り返り	地域の子どもは地域で見守ることを基本として、青少年を取り巻く環境の整備や実態把握を行うことで、地域の青少年の非行防止につながっている。		
	後期に向けた課題	地域、学校、警察、関連団体等が連携し、巡回活動や啓発活動を通して青少年の非行防止や犯罪抑止を行う必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り	センター情報を地域へ発行することで、飯田署管内の青少年の犯罪状況やセンターの活動状況について情報を発信し、地域の青少年の非行防止の取り組みに役立ててもらおう。		
	後期に向けた課題	ケータイやネット関連で子どもたちが巻き込まれる犯罪やいじめが社会的問題となっており、ネット問題等においてもセンター情報等を通じて情報を発信し、啓発を行っていく必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り	育成推進委員と地域団体、学校、関係団体が合同で巡回を行うことで、市内の広い地域の青少年の実態把握が実施できる。		
	後期に向けた課題	育成センターで巡回した地域の青少年の実態状況を地域の青少年健全育成活動団体等へ情報を発信することで、地域の少年非行のための意識の高揚を図る。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	青少年の非行防止、犯罪抑止のための事業であり、市が関与する必要がある。		
	後期に向けた課題	同上。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	①青少年育成推進委員が、地区や青少年育成関連団体等と合同で巡回を実施したり情報交換をすることで、地域の青少年の環境整備が図られる。 ②また育成センター情報で育成センターの取り組みを地域へ紹介することで、推進委員の活動を広く周知してもらおう。		
	後期に向けた課題	育成推進委員が、各地区のまちづくり委員会や青少年健全育成の関連団体等と合同で巡回を行うことで、地域の青少年の環境整備が推進され、情報交換を行うことで、連携が図られる。育成センター情報等で活動を地域へ発信することで推進委員の活動を広く周知してもらおう。		
全体を通じて	4年間の振り返り	地域自治組織の指導により、地域の子どもは地域で見守るための取り組みが各地域にて進められてきた。各地域ではあいさつ運動など、地域独自の取り組みにより青少年健全育成が進められている。育成センターと地域が連携し、相互に協力しあうことにより、市全体の青少年健全育成を推進してきた。		
	後期に向けた課題	飯田警察署管内の方引き等の少年犯罪件数は増加傾向にあり、地域における青少年の非行防止のため市と地域、警察、学校、関連団体が連携し、情報の共有を行い、少年非行防止や啓発業務に加えて家庭教育の推進など青少年健全育成をより広い視点でとらえて推進していく。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------